

## ワカケサラサハゼ *Amblygobius linki* の奄美大島 と屋久島からの記録

著者	荻原 豪太, 原崎 森, 本村 浩之
雑誌名	日本生物地理学会会報
巻	64
ページ	41-45
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10232/22179">http://hdl.handle.net/10232/22179</a>

## ワカケサラサハゼ *Amblygobius linki* の 奄美大島と屋久島からの記録

萩原 豪太<sup>1\*</sup>・原崎 森<sup>2</sup>・本村 浩之<sup>3</sup>

<sup>1</sup>〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館(水産学研究所)  
<sup>2</sup>〒891-4205 鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1559-1 屋久島ダイビングサービス「森と海」  
<sup>3</sup>〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

### New records of *Amblygobius linki* (Gobiidae) from Amami-oshima and Yaku-shima Islands, Kagoshima, southern Japan

Ogihara, Gota<sup>1\*</sup>, Shigeru Harazaki<sup>2</sup> and Hiroyuki Motomura<sup>3</sup>

<sup>1</sup>The Kagoshima University Museum (Graduate School of Fisheries, Kagoshima University),  
1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan

<sup>2</sup>Diving Service Mori to Umi, 1559-1 Miyanoura, Yakushima, Kumage, Kagoshima 891-4205, Japan

<sup>3</sup>The Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan

**Abstract.** A single specimen of *Amblygobius linki* Herre, 1927 was collected off Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan, and this species was photographed at the mouth of the Ambo River in Yaku-shima Island, the Ryukyu Islands. Because the species has been known only from Okinawa Island and southward in Japanese waters, the Amami-oshima Island specimen and the Yaku-shima Island photographic individual represent the first records of *A. linki* from Kagoshima Prefecture, and the latter being the northernmost record for the species.

**Key words:** *Amblygobius linki*, Gobiidae, northernmost record, Amami-oshima Island, Yaku-shima Island.

#### (要約)

従来沖縄島が分布の北限と考えられていたハゼ科サラサハゼ属ワカケサラサハゼ *Amblygobius linki* が奄美大島の河口域から採集された。また、本種は屋久島の安房川河口でも目視確認され、撮影された。これらはワカケサラサハゼの鹿児島県からの初記録であり、本種の分布の北限が屋久島になる。本報告では、採集された標本に基づき詳細な記載を行った。

ハゼ科サラサハゼ属魚類 (Gobiidae: *Amblygobius*) は、日本近海からはジュウモンジサラサハゼ *A. decussates* (Bleeker, 1855), キンセンハゼ *A. hectori* (Smith, 1957), ワカケサラサハゼ *A. linki* Herre, 1927, ホホベニサラサハゼ *A. nocturnus* Herre, 1945, サラサハゼ *A. phalaena* (Valenciennes, 1837), およびスフィンクスサラサハゼ *A. sphinx* (Valenciennes, 1837) の6有効

種 (Akihito, *et al.*, 2002; 鈴木・渋川, 2004) と、2未記載種が知られている (鈴木・渋川, 2004)。

*Amblygobius linki* は、フィリピン・スール州ブンガウの埠頭周辺から採集された2標本に基づき1927年に新種として記載された。その後、林ほか (1981) は沖縄県西表島産の標本に基づき本種を日本初記録として報告し、新標準和名ワカケサラサハゼを提唱した。現在、

\*連絡先 (Corresponding author): go.synanceiidae@gmail.com

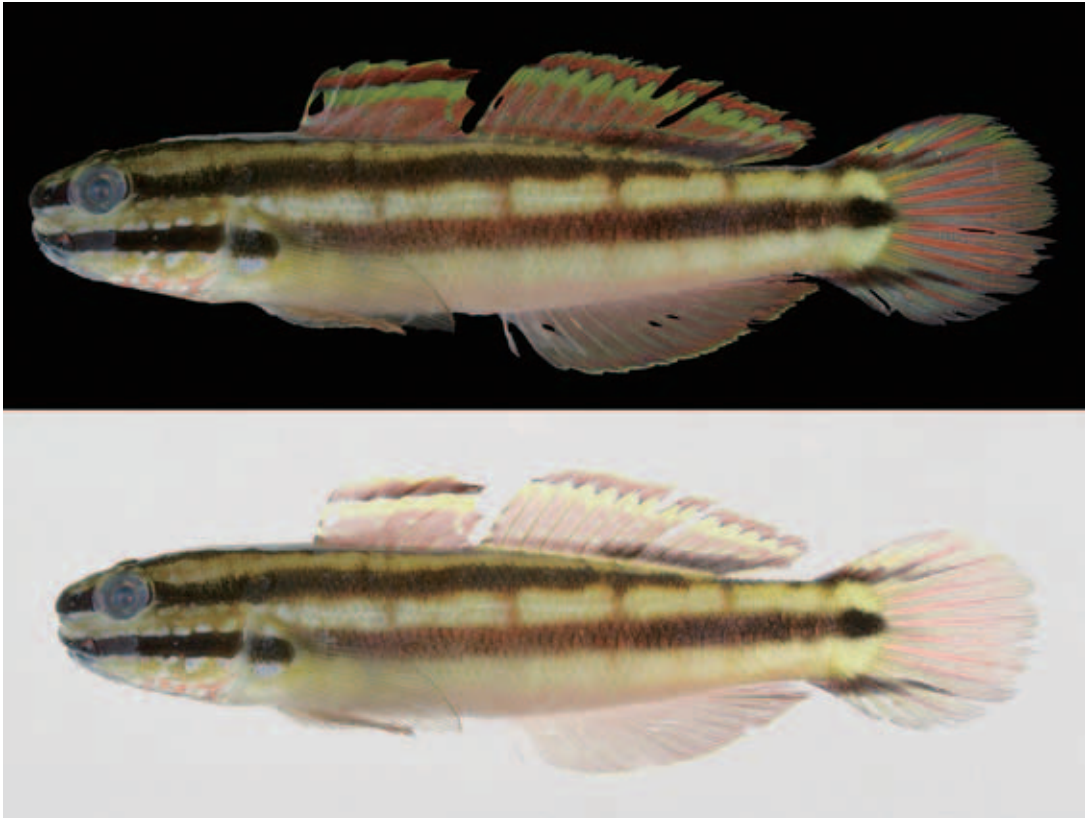


Fig. 1. *Amblygobius linki*. KAUM-I. 20551, 40.7 mm SL, Uchiumi, Misato, Sumiyo, Amami-oshima Island, Kagoshima, Japan.

ワカケサラサハゼは沖縄県以南の西部太平洋に広く分布し (Akihito *et al.*, 2002; 鈴木・渋川, 2004), 主に内湾や港, 河口に生息していることが知られている (鈴木・瀬能, 1983; Akihito *et al.*, 2002).

2008年11月19日に行った奄美大島における魚類調査で, 川内川と見里川の河口に位置する内海からワカケサラサハゼと同定される標本が採集された. この標本は, 本種の鹿児島県における標本に基づいた初記録であり, 同時に分布の北限更新になるためここに報告する. また2008年11月8日, 第2著者によって屋久島安房川河口でワカケサラサハゼの生態写真が撮影された. 屋久島産の標本は得られていないが, トカラ列島以北における本種の初

めての確かな記録であり, 生物地理学上重要であるため, ここに合わせて報告する.

## 方 法

計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1949) に従った. 計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った. 背鰭と臀鰭の最後の2軟条は1本と計数した. 頭部感覚孔の名称は明仁ほか (2000) に従った. 生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影されたカラー写真に基づく. 本報告で用いた標本は鹿児島総合研究博物館 (KAUM) に所蔵されており, そのカラー写真は同館の画像データベースに登録されている.



Fig. 2. Underwater photograph of *Amblygobius linki*. Mouth of Ambo River, Ambo, Yaku-shima Island, Kagoshima, Japan, 3 m depth, 8 Nov. 2008, water temperature 24–25°C (specimen not collected). Photo by S. Harazaki.

### ワカケサラサハゼ (Figs. 1–2)

*Amblygobius linki* Herre, 1927

**標本** KAUM-I. 20551, 標準体長 40.7 mm, 鹿児島県奄美市住用町見里内海 (28°17'24"N, 129°26'41"E), 水深 0.5 m, 2008 年 11 月 19 日, タモ網, 荻原豪太.

**記載** 背鰭 VI-I, 13, 臀鰭 I, 13, 胸鰭 17, 腹鰭 I, 5, 縦列鱗 60, 横列鱗 19. 体各部の計測値は標準体長に対する百分率 (%) で示す: 胸鰭基底での体高 20.4 %; 胸鰭基底での体幅 15.0 %; 頭長 27.5 %; 吻長 7.1 %; 眼径 8.1 %; 両眼間隔 3.4 %; 上顎長 10.1 %; 第 1 背鰭基底長 17.4 %; 第 2 背鰭基底長 31.0 %; 臀鰭基底長 27.3 %; 尾柄高 13.0; 尾柄長 17.0 %.

頭部感覚管は, 前眼肩胛管に開孔 B', C (単一), D (単一), E, F, G, H', 後眼肩胛管に開孔 K', L', 前鰓蓋管に開孔 M', N, O' がある. 頬部の孔

器は横列する.

体は細長く, 円筒形眼は頭の側面に位置する. 口はわずかに上位で小さく, 上顎後端は眼の前縁をわずかに超える. 吻は前に突出し, わずかに上唇前端を被う. 下顎の中央付近に外側を向く左右一対の犬歯状大型歯がある. 体側に側線がない. 胸鰭の後端は臀鰭始部に達しない. 腹鰭は完全な吸盤状で, その後端は第 1 背鰭後端を超えない. 背鰭は 2 基で第 2 背鰭基底が長い. 肛門は臀鰭始部の直前に位置する. 尾鰭後端は丸い.

生鮮時の体色は, 体側の地色が白みがかった黄色で, 頭部から尾鰭基底まで 2 黒色縦帯が走る. 第 2 背鰭から尾鰭上葉に不連続な 1 黒色縦帯と, 尾鰭下葉に 1 黒色縦帯がある. 体側に 5 黒色横帯がある. 第 1 背鰭, 第 2 背鰭上部縁辺から黄色, 黒色, 黄色の縦帯がある. その下は, 第 1 背鰭は背鰭基部まで淡黒色で, 第

2 背鰭は後方に向かうにつれて黒色。尾鰭は透明感のある黄色みを帯びた淡い赤色。胸鰭、腹鰭は透明感のある淡黒色。臀鰭は赤色がかった淡黒色で縁辺はクリーム色。尾柄に黒色斑がある。

ホルマリン固定後、70%エチルアルコールで保存した標本では、体側の地色は灰色がかった白色。黒色以外の色はすべて消失し、背鰭、胸鰭、腹鰭、臀鰭、尾鰭は透明感のある淡黒色。臀鰭の縁辺は白色。体側の2黒色縦帯、体側の5黒色横帯、第1、2背鰭の黒色縦帯、尾鰭の2黒色縦帯は明瞭に残る。

**分布** 本種は、屋久島(写真記録のみ; 本研究), 奄美大島内海(本研究), 沖縄島(Akihito *et al.*, 2002; 鈴木・渋川, 2004), 石垣島(鈴木・瀬能, 1983; Akihito *et al.*, 2002; 鈴木・渋川, 2004), 西表島(林ほか, 1981; 鈴木・瀬能, 1983; 吉郷・中村, 2002), フィリピン(明仁親王, 1984), 南シナ海(Randall and Lim, 2000), インドネシア(Tan and Lim, 2004)などの西部太平洋(Akihito *et al.*, 2002; 鈴木・渋川, 2004; 鈴木・瀬能, 2006)に分布する。

**生息状況** 奄美大島産の標本は、河口域の流れが緩やかな軟泥底に転石が散在する場所から採集された。本標本を採集した際、本種は水底から数 cm 離れて単独で遊泳しており、他の産地での本種の生息状況(Akihito *et al.*, 2002; 鈴木・渋川, 2004; 鈴木・瀬能, 2006)と一致する。同所からは、ワカケサラサハゼの他にミナミクロサギ *Gerres oyena* (KAUM-I. 20566), サラサハゼ *Amblygobius phalaena* (KAUM-I. 20556), ハゴロモハゼ *Myersina macrostoma* (KAUM-I. 20554), サザナミフグ *Arothron hispidus* (KAUM-I. 20565) などが同時に採集された。

**備考** 本標本は、眼が頭部側面に位置する、下顎中央付近に外側を向く左右一対の犬歯状大型歯がある、腹鰭が吸盤状であることなどからサラサハゼ属に同定される(Akihito *et al.*, 2002; 鈴木・渋川, 2004)。さらに、体側に2黒色縦帯があることからワカケサラサハゼに同定

された(Akihito *et al.*, 2002; 鈴木・渋川, 2004; 鈴木・瀬能, 2006)。

奄美大島で採集されたワカケサラサハゼは、単独で遊泳しており、採集個体の他に本種は確認されなかった。奄美大島における本種の生息密度がきわめて低いことは確かであるが、同島周辺で本種が再生産しているかどうか判断するためには今後のさらなる調査が必要である。

2008年11月8日にワカケサラサハゼが写真撮影された屋久島安房河川河口で、著者らは2009年7月下旬(26-30日)に再調査を行ったが、ワカケサラサハゼを確認することができなかった。さらに第2著者による6年にわたる屋久島の魚類相調査でも本種は上述の写真記録1回と目視記録1回のみが確認されたにすぎない。したがって、ワカケサラサハゼは屋久島では再生産していない可能性が極めて高い。

本種の分布は、これまで沖縄以南とされていたが(Akihito *et al.*, 2002; 鈴木・渋川, 2004)、本研究によって奄美大島と屋久島からもその生息が確認された。したがって、ワカケサラサハゼの分布は約550 km 北限を更新したことになる。

## 謝 辞

標本の採集に際して様々な便宜をはかって頂いた鹿児島大学水産学部の四宮明彦博士に深謝する。標本の作製や登録の協力をされた鹿児島大学大学院水産学研究科の松沼瑞樹氏と目黒昌利氏ならびに鹿児島大学水産学部の山下真弘氏と吉田朋弘氏に厚くお礼申し上げる。本研究の一部は文部科学省科学研究費補助金基盤研究A(課題番号19208019)によって行われた。

## 引用文献

明 仁. 1984. ハゼ亜目, pp. 236-284, pls. 235-258, 353-355. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上



- 野輝彌・吉野哲夫編, 日本産魚類大図鑑, 東海大学出版会, 東京.
- 明 仁・坂本勝一・池田祐二・岩田明久. 2000. ハゼ亜目, pp.1139-1310, 1606-1628. 中坊徹次(編), 日本産魚類検索 全種の同定 第2版. 東海大学出版会, 東京.
- Akihito, K. Sakamoto, Y. Ikeda and K. Sugiyama. 2002. Gobioidae, pp. 1139-1310, 1596-1619. In T. Nakabo (Ed.), *Fishes of Japan with pictorial keys to the species*, English ed. Tokai Univ. Press, Tokyo.
- 林 公義・鈴木寿之・伊藤 孝・瀬能 宏. 1981. 南西諸島のハゼ科魚類について(III). 横須賀市博物館研究報告(自然科学), (28): 1-15.
- Hubbs, C. L. and K. F. Lagler. 1949. Fishes of the Great Lakes region. *Bull. Cranbrook Inst. Sci.*, (26): i-xi, 1-186.
- Randall, J. E. and K. K. P. Lim. 2000. A checklist of the fishes of the South China Sea. *Raffles Bull. Zool. Suppl.*, (8): 569-667.
- 鈴木寿之・瀬能 宏. 1983. 八重山列島の陸水性魚類 VII. 南紀生物, **25**(1): 49-54.
- 鈴木寿之・瀬能 宏. 2006. ハゼ科, ワカケサラサハゼ, p.605. 岡村 収・尼岡邦夫(編), 日本の海水魚, 第3版. 山と溪谷社, 東京.
- 鈴木寿之・渋谷浩一. 2004. 決定版日本のハゼ. 平凡社, 東京. 534 pp.
- Tan, H. H. and K. K. P. Lim. 2004. Inland fishes from the Anambas and Natuna Islands, South China Sea, with description of a new species of *Betta* (Teleostei: Osphronemidae). *Raffles Bull. Zool. Suppl.*, (11): 107-115.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2002. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 II. 比和科学博物館標本資料報告, (3): 85-137.

(2009年10月26日 受理)